

2009年10月9日(金)

広島国際大学
心理学部 コミュニケーション学科 公開講座

「子供たちの
コミュニケーションについて考える」

人間的コミュニケーションの喪失であると言われる現代において、子供たちが他者への人間的な優しさや思いやりを回復し、親子の間でも、血の通ったコミュニケーションができるようにするにはどのような方法があるか、児童文学者の那須正幹氏が、著作の「ズッコケ三人組」を通し、受講者に分かりやすく語りかけます。

なお、日程につきましては以下のとおりです。
皆様の参加を心よりお待ちしております。

- ◎ 日 時： 2009年10月17日(土) 14:00～16:30【開場 13:30】
- ◎ 場 所： 広島国際大学 広島キャンパス(国際教育センター) 7階 700号室
(〒730-0016 広島市中区幟町1-5)
- ◎ 講 師： 那須 正幹(日本児童文学者協会 会長)
- ◎ テーマ： 「今どきの子供のコミュニケーションについて - 『ズッコケ三人組』」
- ◎ 対象者： 教育関係者、学生、一般【定員：200名】
- ◎ 参加費： 無 料(事前申し込み不要)

添付資料：セミナーパンフレット、ポスター

以上

この件に関するお問い合わせ先

広島国際大学 心理学部事務室 までお願いいたします。

TEL : 0823-70-4851

上記リリースに関する資料は <http://www.hirokoku-u.ac.jp/>にUPされております。

広島国際大学 心理科学部 コミュニケーション学科 公開講座
「子供たちのコミュニケーションについて考える」
開催のご案内

拝啓 皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。1 昨年、昨年と「英語教育について考える」と題しての公開講座では、英語教育界で活躍されている先生方をお招きしました。今回は、『ズッコケ三人組』シリーズ(ポプラ社)の作者として名高い、児童文学者の那須正幹先生をお招きすることになりました(詳しくは、講師紹介ページをご覧ください)。下記の予定で、講演会を開催いたします。お誘い合せの上、ご参加ください。

- 講座名 公開講座 「子供たちのコミュニケーションについて考える」
テーマ 「今どきの子供のコミュニケーションについて——対人コミュニケーションが下手な子供たちについての考察」
主催 広島国際大学心理科学部 コミュニケーション学科

○実施要領

1. 日時: 平成 21 年 10 月 17 日(土曜日) 14:00~16:30 開場 13:30
2. 場所: 国際教育センター 7 階 700 号教室 (広島国際大学広島キャンパス)



〒730-0016 広島市中区幟町 1-5 広島駅から徒歩 10 分
※会場には、駐車場はありません

3. プログラム
 - (1) 14:00~14:10 主催者挨拶
 - (2) 14:10~15:40 講演(90分 その後 10 分の休憩)
演題「今どきの子供のコミュニケーションについて——『ズッコケ三人組』の場合」
講師: 那須正幹(日本児童文学者協会会長)
 - (3) 15:50~16:20 質疑応答 自由討議
 - (4) 16:20~16:30 閉会の辞
4. 参加対象者 教育関係者、学生、一般
5. 参加費 無料
6. お問い合わせ先

〒739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台 555-36
広島国際大学 心理科学部事務室 電話 0823-70-4851
ホームページ <http://www.hirokoku-u.ac.jp/>

那須正幹氏 講演内容

現代の子供たち（児童、生徒、あるいは大学生も含む）は、一般に人と人とのコミュニケーションが苦手であると言われている。塾通いに追われ、ゲームに熱中し、受身的にテレビを観て、用事は携帯電話やパソコンですます現状では、子供たちが、意思も感情もある、生身の人間を相手に説得したり、議論したり、協働したりする機会を失い、その技術が下手になるのは当然である。こうして、現代の通信技術の未曾有の発達はこの時代に、人間的コミュニケーションはますます希薄になりつつある。

本講演においては、このような子供たちの人間的コミュニケーションの喪失の時代において、子供たちが他者への人間的な優しさや思いやりを回復し、親子の間でも、血の通ったコミュニケーションができるようにするにはどのような方法があるかを、児童文学者の那須正幹氏が、『ズッコケ3人組』（全50巻シリーズ、全国で2000万部以上売上げ）の著作の経験を通して、受講者に分かりやすく語りかける。

那須正幹氏 略歴

- 1942年 広島市に生まれる 3歳のときに、爆心地から3キロのところまで被爆
- 1961年 県立島根農科大学（現島根大学農学部）林業科に入学
- 1965年 同上 卒業 その後東京にて、サラリーマンとして2年過ごし、帰郷。父の書道塾を手伝う。
- 1968年 広島児童文学研究会に入り、処女作『ヒバリになったもぐら』を書く
- 1970年 長編小説『首なし地ぞうの宝』 学研児童文学賞佳作に入選
- 1977年 結婚
- 1978年 『それいけズッコケ三人組』がポプラ社より出版される
- 1999年 『ズッコケ三人組』がテレビドラマ化される
- 2000年 ズッコケシリーズ 1800万部突破
戦後の日本児童文学最大のベストセラーとなる
- 2007年 日本児童文学者協会 第15代会長に選出

- 主な受賞歴
- 学研児童文学賞佳作入選（1972年）
 - 路傍の石文学賞受賞（1994年）
 - 日本児童文学者協会賞受賞（1995年）
 - 巖谷小波文芸賞受賞（1999年）
 - 野間児童文芸賞受賞（2000年）
 - 日本児童文学者協会賞特別賞受賞（2005年）

広島国際大学公開講座 咲楽塾

子供たちのコミュニケーションについて考える

演題 今どきの子供のコミュニケーションについて

——『ズッコケ三人組』の場合

講師

なす まさもと
那須正幹 先生

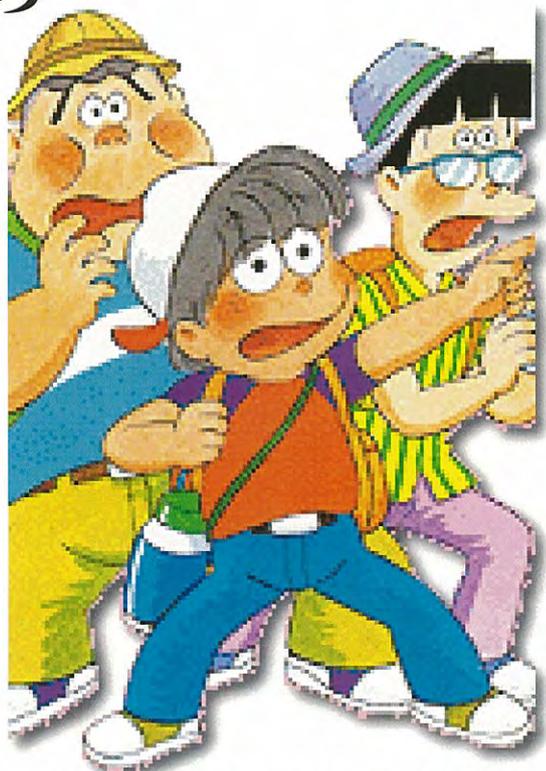
(日本児童文学者協会会長)

日時 平成21年10月17日(土) 14時から

場所 広島国際教育センター 7階700号室

広島市中区鞆町1の5 広島駅から徒歩10分

申し込み不要 入場無料



ポプラ社 前川かずお, 高橋信也(絵)